

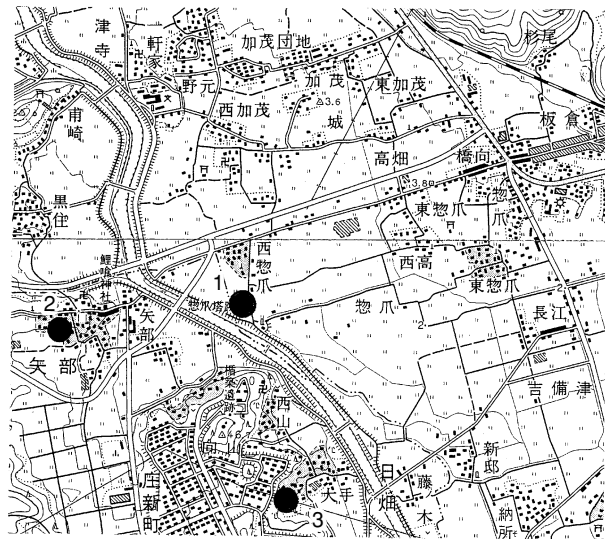
「吉備の古代寺院」

第四章

第二節 その他の寺院

(2) 惣爪廃寺(岡山市惣爪)

JR吉備線吉備津駅の西南西約二キロ、足守川左岸の沖積地上に立地する。津寺廃寺とも呼ばれる。古代の都宇郡駅家郷に比定される。北約三〇〇メートルを古代山陽道が東西に通過し、西約六〇〇メートルに津峴駅家推定地の矢部遺跡、南約七〇〇メートルに白鳳時代寺院跡・日畑廃寺がある。水田の一角に塔心礎(国指定史跡)が現存する。心礎は枿穴式で、花崗岩製である。形状は不整形円で、長径約二メートル、短径約一・五メートルを測り、その中央に直径七〇センチ、深さ一七センチの柱座を穿ち、さらにその中心に直径一六センチの舍利孔を穿っている。出土遺物は不明で、軒丸瓦一点が知られるのみである(文1)。こ

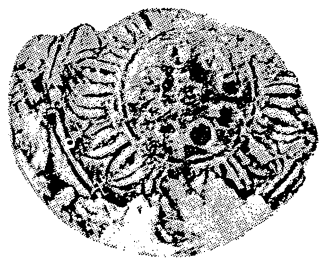


惣爪廃寺位置図(1. 惣爪廃寺 2. 矢部遺跡 3. 日畑廃寺)
(国土地理院2万5千分1地形図「総社東部」[倉敷])

れは複弁八葉蓮華文である。大型の中房内に一十八の蓮子をおき、蓮弁と間弁は規則性を失い、単弁に近くなっている。外区内縁は二重の圏線、同外縁は線鋸歯文である。二子御堂奥窯址群軒丸瓦5類、矢部遺跡軒丸瓦I類(文2)などと同范と推定され、奈良時代中期に編年される。

塔心礎の存在から、本遺跡が寺院跡であることは確実であるが、足守川が南に接していることは寺院の立地としてはふさわしくない。これについては、古代の足守川が現在とは異なり北方の山裾を流れていたとする見解もある(文1)。寺域は旧地形から心礎を中心とする一町程の範囲が推定されている(文1)。創建時期については、奈良時代中期の軒丸瓦が参考となるが、一点のみの資料であり、創建に伴うものかどうか不明である。また、二重の枿穴式の心礎は白鳳時代に盛行するが、奈良時代にも少数存在するので、これらの資料から創建時期を判断することは困難である。

文1 永山卯三郎「津寺址」『岡山県史蹟名勝天然記念物調査報告』第五冊、一九二五年
文2 伊藤晃「矢部遺跡」『岡山県史』第一八巻・考古資料、岡山県、一九八六年



惣爪廃寺出土軒丸瓦
(永山卯三郎『岡山県史蹟名勝天然記念物調査報告』第五冊、1925年)



惣爪廃寺塔跡